

平成27年度 東蒲原郡家庭科部 活動報告

部長 廣瀬 智子

1 研究主題 自分の生活に生かす 家庭科学習の在り方

2 研究の概要

- ・授業研究により、自分の生活に生かす家庭科学習の展開について考える。
- ・家庭科指導の充実を図るための実技実習研修を行い、家庭科指導力の向上を図る。
- ・各自の実践や指導の構想を持ち寄り、自分の生活に生かす家庭科学習の在り方について研修をする。

第1回 活動計画立案

第2回 指導案検討会 給食・食育部と合同で、模擬授業形式で指導案を検討

第3回 授業研究「くふうしよう 朝の生活」(第6学年)

授業者:三川小学校 河村 崇 教諭 三川中学校 川崎 春奈 栄養教諭

指導者:新潟医療福祉大学 教授 森泉 哲也 様

第4回 実習研修「くふうしよう おいしい食事」・身近な食品でおかず作り

第5回 「自分の生活に生かす家庭科学習」実践報告会 実践レポートの持ち寄り

3 研究の実際

(1) 第3回 授業研究より

〈本時のねらい〉

- ・朝食と学校給食を比べることを通して、自分の朝食を振り返り、改善や工夫を考えることができる。

○ 栄養教諭とのTTで授業を行った。給食を教材として活用し、児童が実際に食べた給食を三色食品群に分類した。その後、ある人の朝食メニューを提示し、同様に三色食品群に分類させ、比較することで「バランスのよい食事」について考えさせた。

○ 「バランスのよい食事」を全体で確認した後、自分の朝食について振り返らせた。

○ 食に関する指導を家庭科で行う場合、「家庭科の特質」に応じて指導することが大切。特別活動になってはいけない。家庭科の特質の中でも、調理の部分はとても大切であり、「朝ごはん＝短時間で調理ができる」の指導は重要。そして、家庭科で学んだことを実生活で生かすためには家庭との連携が不可欠である。食育の最大目標も行動の変容である。家庭と連携して、実生活につながる指導をしていく必要がある。



(2) 第4回 調理実習研修より

身近な食品「卵」を使って、子どもたちが実際の生活で実践できそうなメニュー「スクランブルエッグ」と「ふわふわ卵の具たくさんスープ」を取り上げ調理実習した。火加減等、作り方のポイントをシェフの経験がある津川小学校 中村教諭から教えてもらうことができた。試食中にも調理実習についての情報交換を行った。

4 成果と課題

○ 指導案検討会(模擬授業形式)や授業研究を行うことで、自分の生活に生かす家庭科学習についての手立てを探る有意義な研修となった。

△「食に関する指導」を家庭科で実践する場合、教科の特質に応じた指導を今後も栄養教諭と連携し推進していく必要がある。